

専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進事業（能代地域）の取り組み － 2 年次（平成 17 年度）－

能代市立能代商業高等学校教諭 齊藤 隆

1. はじめに

平成 18 年 2 月 16 日の『若者自立・挑戦プラン』における本推進事業の位置付け及び評価について（継続地域）の文部科学省からの通知には、次のように記されている。「専門高校等における『日本版デュアルシステム』推進事業は、関係 4 大臣（文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣）の合意である『若者自立・挑戦プラン』（平成 15 年 6 月 10 日）に基づく具体的施策であると共に、政策群『若者・長期失業者の就業拡大』に登録された施策として、各省連携のもとに推進される」。さらに、平成 16 年 6 月 18 日に、内閣官房長官が加わった関係 5 大臣による『強化の基本的方向』が、平成 16 年 12 月 24 日に『アクションプラン』、平成 17 年 10 月 6 日に『強化』、平成 18 年 1 月に改定版『アクションプラン』が合意された。その中で「専門高校等において、学校の教育と企業での実習を組み合わせた日本版デュアルシステムについて、その効果的な導入手法などを探るためのモデル事業を引き続き実施し、本システムの普及・定着を図る」とされている。そして、このプランに基づく政策群『若者・長期失業者の就業拡大』において、府省間の連携強化と共に目標の明確化・体系化をして、個別の事業毎に定量的な評価指標を定めることとされた。本事業においても「平成 18 年度までに、『日本版デュアルシステム（実務・教育連結型人材育成システム）』を行った専門高校生の進路未定者の割合を 10 パーセント以下にする」と設定し、「各地の多様性を確保しつつ、各地域における特色ある取り組みを推進し、さまざまな角度から評価を行い、事業内容について検証してほしい」と結んでいる。

それを受けて、平成 16 年度には 15 地域 20 高校が研究指定を受け、さらに平成 17 年度には 5 地域、5 高校が追加研究指定を受けた。以下、2 年目における能代地域の取り組みについてまとめる。

2. 本校の研究の概要・特徴等

(1) 研究のねらい

- ① 本校で学んでいるマーケティング、外国語、会計、情報などのビジネスの基礎・基本の知識や技能が地場産業の木材業や地元の小売店等の企業でどのように生かされているかを生徒に理解させる。また、アントレプレナーシップ教育の一環として本校で実践している「能商直営店あきんど」の研究で培った起業家精神をさらに発展させる。
- ② 地域経済の現状を生徒に理解させるとともに、実際に地域づくりに参加することによって、地域に貢献できる職業人として自ら積極的に進路決定ができるようにする。
- ③ 職場の異世代と交流することによって生徒のコミュニケーション能力を高め、学校生活だけではなく卒業後も職場で人間関係を円滑に保つことができるようにし、同時に社会人としてのマナーについて生徒に学ばせる。
- ④ 地元企業はどのような人材を求めているか、本校生徒に求められている資質や技能は何か等について調査し、それを踏まえて学校としてどのような取り組みができるかを考え、試行し、学校と企業とのパートナーとしての在り方を研究する。
- ⑤ 生徒と受入企業での実習内容とをマッチングさせ、継続的な、しかも実効ある取り組みにするためには、商工会議所やハローワーク、教育委員会等の関係諸機関との連携をどのように構築するかを研究する。
- ⑥ 企業実習を教育課程上どのように位置付け、方法も含めて実習の成果をどのように評価すべきかを研究する。

(2) 対象学科と対象人数

①対象学科 国際情報ビジネス科

②対象人数の規模

1 年 次

企業見学 2 回、講演会 2 回 1 年生全員

販売・福祉実習 2 日間 2 年生全員
 企業実習 2～7 日間 2 年生の就職希望者 16 名
 企業実習 5～10 日間 3 年生の地元就職内定者 15 名

2 年 次
 企業見学 2 回、講演会 1 年生全員
 販売・福祉実習 3 日間 2 年生全員
 企業実習 3～10 日間 2 年生の就職希望者 21 名
 企業実習 4～14 日間 3 年生の地元就職希望者 31 名

3 年 次
 企業見学 2 回、講演会 1 年生全員
 販売・福祉実習 3 日間 2 年生全員
 企業実習 5～10 日間程度 2 年生の就職希望者 20 名程度
 企業実習 10～15 日間程度 3 年生の地元就職希望者 30 名程度

(3) 企業実習等の実施時期及び期間

1 年生全員 6 月下旬と 7 月中旬の 2 回企業見学、
 2 回講演会

2 年生全員
 1 年 次 8 月下旬 2 日間販売・福祉実習
 2 年次以降 8 月下旬 3 日間販売・福祉実習
 2 年生の就職希望者 20 名程度
 1 年 次 冬季休業期間 2～7 日間企業実習
 2 年次以降 夏季・冬季休業期間 5～10 日間程度企業実習

3 年生の地元就職希望者 30 名程度
 1 年 次 冬季休業期間 5～10 日間企業実習
 2 年次以降 夏季休業期間 10～15 日間程度企業実習

(4) 企業実習等の教育課程上の位置付け

1 年生全員の企業見学、講演会
 商業科目の「ビジネス基礎」の時間に実施

2 年生全員の販売・福祉実習
 商業科目の「課題研究」の時間に実施

2 年生就職希望者 20 名程度企業実習
 夏季・冬季休業期間に実施

3 年生地元就職希望者 30 名程度企業実習
 夏季休業期間に実施

※ 平成 17 年度から教科科名を「学校外活動」、科目名を「学修 C」として単位認定した。単位数は就業時間数に依る。3 年生の企業実習については平成 18 年度以降は平常授業日の実施についても検討したい。

3. 地域との連携と校内態勢の構築

学校と企業との調整を行うコーディネーターを能代商工会議所にお願ひし、また、能代山本雇用開発協会、ハローワーク能代、地元企業、能代商業高等学校教育振興会、能代商業高等学校、能代工業高等学校の代表者で運営委員会を組織し、それぞれの立場での支援と協力をお願ひし、連携と協力態勢を構築した。さらに、具体的な運営事務は、能代商業高等学校・能代工業高等学校・能代西高等学校の事務局と能代商工会議所事務局長、能代工業団地連絡協議会事務局長、ハローワーク能代上席職業指導官、能代市役所商工港湾課商業係主事が担当し、学校と企業との連絡調整を行っている。能代商業高等学校・能代工業高等学校・能代西高等学校においては、推進委員会を組織し、進路指導部や各学年部と連携し、実習希望生徒への指導や企業との折衝を行うための校内態勢を構築した。

4. 2 年次（平成 17 年度）の取り組み

次に、平成 17 年度における夏季休業期間と冬季休業期間に実施した企業実習について実習生徒一覧を示し、生徒の変化、受入企業におけるメリットとデメリットを簡単に述べる。

【 夏季休業期間の実習生徒一覧（学年、組、性別、実習企業名、職種、期間、日数） 】

能代商業高等学校（23 名）

学年	組	性別	実習企業名	職 種	期 間	日 数
2	A	女	幸和リース	事務	7/25～7/29	5 日間
2	A	女	シャディハッピー	販売	8/6～8/15	10 日間
2	B	女	山本組合総合病院	看護	7/25～7/29	5 日間
2	B	女	赤玉薬局（駅前）	販売	8/1～8/11	10 日間
2	C	女	赤玉薬局（中和）	販売	8/1～8/11	10 日間
2	D	女	シャディハッピー	販売	7/26～8/4	10 日間
2	D	女	シャディハッピー	販売	8/1～8/10	10 日間
3	A	男	大栄木工	技能	7/25～8/5	10 日間

3	A	男	ナカヨ通信機	技術	8/1～8/5	5日間
3	A	女	大栄木工	事務	7/25～8/5	10日間
3	B	男	ナカヨ通信機	技術	8/1～8/5	5日間
3	B	女	プラザ都	サービス	8/1～8/5	5日間
3	C	男	ナカヨ通信機	技術	8/1～8/5	5日間
3	C	女	幸和リース	事務	7/25～7/29	5日間
3	C	女	みなみ歯科	歯科助手	8/1～8/10	10日間
3	C	女	能代市第四保育所	保育	8/8～8/12	5日間
3	C	女	みなみ歯科	歯科助手	8/1～8/10	10日間
3	C	女	まつばら保育園	保育	7/27～8/6	10日間
3	D	男	山本農業共済組合	事務	7/25～8/5	10日間
3	D	女	赤玉薬局（落合）	販売	8/1～8/10	10日間
3	D	女	テラタ	事務	8/1～8/5	5日間
3	D	女	希望苑	介護	8/2～8/10	7日間
3	E	女	船沢温泉	サービス	8/1～8/5	5日間

能代工業高等学校（9名）

学年	組	性別	実習企業名	職 種	期 間	日 数
3	M	男	山一興業	販売・整備	7/25～8/5	10日間
3	M	男	安藤鉄工建設	技術	8/27～9/24	4日間
3	E	男	能代印刷所	技術	8/1～8/12	10日間
3	E	男	NPO 白神ねっと	技術	7/28～8/5	7日間
3	E	女	シャディハッピー	販売	8/6～8/19	14日間
3	AW	男	幸和リース	整備	7/25～7/29	5日間
3	AW	男	山本農業共済組合	事務	7/25～8/5	10日間
3	U	男	田中建設	建設	8/1～8/5	5日間
3	U	男	嶋田建設	建設	7/25～8/10	10日間

能代西高等学校（6名）

学年	組	性別	実習企業名	職 種	期 間	日 数
3	A	男	ヤマキ	販売	8/8～8/20	10日間
3	A	女	能代山本医師会病院	看護	7/28～8/8	7日間
3	A	女	能代山本医師会病院	看護	7/28～8/8	7日間
3	B	男	かさい肉店	販売	7/22～8/2	11日間
3	B	男	能代青果地方卸売市場	仕分・集荷	8/8～8/13	6日間
3	B	女	ガトーイトー	販売・製造	7/23～8/6	11日間

【 冬季休業期間の実習生徒（ 学年 2年生 実習期間 3日間～10日間 ） 】

学 校 名	参加生徒数	実 習 企 業 名
能代商業	7名	能代キャッスルホテル平安閣，ガトーイトー，東雲石油
能代工業	2名	日産プリンス秋田販売，長寿園
能 代 西	5名	ゆめろん，あきた白神温泉ホテル，海光苑，プラザ都，NPO 白神ねっと

(1) 生徒の変化

生徒は、実習前にも働くということについてはそれぞれ自分なりにイメージを持っていたようだ。例えば、仕事というのはただ与えられたことをこなしているだけでよいとか、同じことを毎日繰り返し繰り返しやっていけばよいとか、任されたことについては責任を持ってやらなければいけないとか、給

料をもらうのだから厳しいのは当然で、仕事は辛いものだったか思っていたようだ。しかし、実習後はむしろ厳しさや辛さよりも、やり遂げたときの達成感や喜び、やりがいなどについても実感し、働くことや仕事に対する考え方が大きく変化した生徒が多かった。また、不安があった生徒も、実習を通して自信を持ったようだ。3年生にとっては直前に就職を

ひかえ、忙しかった生徒もいたが、職業観や勤労観、コミュニケーション能力や実務能力を確実に身に付けたのではないかとと思われる。

(2) 受入企業におけるメリットとデメリット

インターンシップとの違いが徐々に浸透してきているが、まだまだその違いを理解していない企業も多い。企業には今後も説明していかなければならないと考える。

さて、アンケートからは受け入れた企業では、次のようなメリットやデメリットがあったと報告を受けた。メリットは、職場が活性化したとか、引き締まったとか、企業や仕事内容を知ってもらう機会になったとか、企業のイメージの向上に繋がったとか、作業を手伝ってもらい助かったなどで、デメリットは、思った以上に労力がかかったとか、危険が伴うので目が離せないとか、秘密の保持が難しいなどであった。企業としてはメリットの方がはるかに多かったようだ。そして、受け入れた企業の多くは、今回の企業実習を好意的に捉えており、地元の企業として高校生の就職問題に対しては関心が高く、積極的に協力しなければならないと考えている。謝金（生徒1名、1日について6千円）については必要ないという企業もあったが、有効に活用しているという企業もあった。企業にとってのデメリットについては今後検討し、改善策を考えていく必要がある。

5. 今後の課題（運営委員会のまとめから）

(1) 地域の他の専門高校との連携

この事業を地域全体に広げるためには、他の専門高校と連携した取り組みにする必要があり、他の専門高校と交流することによって地域の産業構造の実態や特徴を生かした取り組みとする。

(2) 運営委員会のより効果的な運営の在り方

運営委員会は年5回の開催であったが、この事業を推進するうえで重要な役割を担っており、地域の取り組みとするためにも今後ますますの充実が必要である。

(3) 本推進事業の広報活動の在り方

企業に対しては6月初旬に450事業所にパンフレットを郵送し、説明会や報告会を実施してこの事業の理解を求めた。生徒・保護者に対してはパンフレットを配布し、説明会や発表会、アンケートを通して参加を促した。継続してこの推進事業を地域に広げるための方法を検討する。

(4) 受入企業の開拓と連携

平成16年度は54事業所、平成17年度は55事業所から受け入れが可能であると回答を得たが、生徒の希望がないということで断わることもあった。職種によっては受け入れが難しい場合もあり、生徒の希望と受入企業とのマッチングが今後の検討課題である。

(5) 企業への謝金と金額

今年度は実習生徒1名について1日6千円の謝金を事業所に支払った。必要ないという所もあったが、有効に活用している事業所もあり、その必要性や金額についても検討が必要である。

(6) 生徒へのきめ細かな事前指導と事後指導

各学校で事前指導や事後指導を実施しているが、実習生徒だけではなく、説明会や発表会等を活用して学校全体として生徒全員に挨拶や社会人としてのマナー指導が必要である。

(7) 校内の態勢の整備（事務局と学年との連携）

事務局や関係職員だけではなく、学校全体として取り組むための組織をいかに構築するかが大切であり、さらに教職員に対する広報活動も必要なのではないかという意見もあった。

(8) 企業実習の成果と課題

主に長期休業期間に実施しているので、2年生は部活動、3年生は就職活動との兼ね合いが難しい。本校では今年度、実習の日数に応じて単位認定した。そのために事業所と協力して実習カリキュラムを作成し、実習内容を明確にした。

(9) 平常授業時に実施する場合の問題点と課題

本校の生徒が希望する販売職やサービス職については、1週間継続した実習が有効であり、曜日が特定されるのは良くないのではという意見があった。

6. むすび

日本でも若者の雇用問題が大きく政治問題として取り上げられるようになり、高校では専門高校を中心にこの調査が行われている。高校生の進路を確実なものにしていくため、地域や企業の援助を受けながら、学校だけではなく社会全体で取り組むことに大きな意義があり、この取り組みは若者の雇用問題を解決していく一つの突破口になるのではないだろうか。3年目にあたる今年度は、他の地域の参考にしていただけるように、さらに特色ある能代地域の取り組みにしていきたい。